静岡・土橋（つちはし）遺跡

1　所在地　静岡県袋井市土橋
2　調査期間　第五次調査　一九九一年（平3）五月～八月
3　発掘機関　袋井市教育委員会
4　調査担当者　吉岡伸夫・早川保子
5　遺跡の種類　集落跡
6　遺跡の年代　弥生時代～江戸時代
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

土橋遺跡は、静岡県西部の小笠山と磐田原台地に挟まれた平野のほぼ中央、太田川の東岸に形成された標高九m前後を測る自然堤防上に位置している。第一次調査区からは、奈良時代後期の遺構・遺物がまとまって出土している。なかでも墨書土器「国厨」「里當」「里人」「上人」や人面墨書土器が出土しており、遺構は一般集落の様相を示すが、文字資料からは国府と関連のある機能をもった集落として注目されている。

木簡の出土した第五次調査区は、第一次調査区より北へ一五〇mほど離れた場所である。第五次調査区からも奈良時代後期の「刀自」ほかの墨書土器や、掘立柱建物の遺構が検出されている。木簡は、西拡張区の平安時代前期の溝SD二から、灰釉陶器とともに一点出土した。

8　木簡の釈文・内容

(1)　二斗五升□　　(64)×15×3　081

木簡は上下両端が欠損し全体の形状は分からないものの、文字の内容から見ると付札の可能性が考えられる。片面のみに文字がある。

9　関係文献

袋井市教育委員会『土橋遺跡Ⅴ』（一九九三年）
松井一明「土橋遺跡」（静岡県教育委員会『静岡県の古代寺院・官衙遺跡』二〇〇三年）

（松井一明）

墨書土器